

## 事例 4 言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育む事例

- 学年 第4学年
- 主な領域 内容(5)ア(ア)(イ)・イ(ア) 県内の特色ある地域の様子
- 事例のポイント
  - ①学んだことを生かした表現活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育む
  - ②具体的な事実を追究する学習過程を通じて、児童の思考を活性化させる
  - ③ICT端末を活用させることを通じて、効果的に情報収集できるようにする

### 1 小単元名 「多文化共生のまちづくり—川越市—」(8時間)

### 2 小単元について(略)

### 3 小単元の目標と評価規準

編 P48 指導計画作成の留意事項(7)

#### (1) 目標

特色ある地域として多文化共生のまちづくりを進める川越市について、姉妹都市提携や中学生の交換訪問、外国人留学生と小中学生との交流、外国籍市民交流事業などに着目して、地図帳や各種の資料で調べて白地図・表などにまとめ、川越市の人々が外国籍の人々と共に暮らすために、どのような関わり方をしているのかを考え、文章や話し合い活動で表現することをおして、多文化共生のまちづくりに努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

#### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①姉妹都市提携や中学生の交換訪問、外国人留学生と小中学生との交流、外国籍市民交流事業などについて、地図帳や各種の資料で調べて必要な情報を集め、読み取り、川越市の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や表などにまとめ、川越市では人々が協力して多文化共生のまちづくりに努めていることについて理解している。	①姉妹都市提携や中学生の交換訪問、外国人留学生と小中学生との交流、外国籍市民交流事業などに着目して、問いを見だし、川越市の様子について考え表現している。 ②川越市の人々の活動や地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして特色を考え、多文化共生のまちづくりに関して適切に表現している。	①川越市の多文化共生のまちづくりの様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

### 4 小単元の指導計画・評価計画(8時間)

過程	○主な学習活動 ・ 学習内容	【評価の観点】内容(方法) ※網掛けは評価した結果を記録に残す場面	資料等

つ か む	<p>①写真「日本語教室の様子」やグラフ「川越市に住む外国籍市民数の変化」から気付いたことを話し合い、「多文化共生」について学習問題を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川越市国際交流センター ・日本語教室</li> <li>川越市の位置、埼玉県の人口第3位の都市</li> <li>近郊農業、流通業、商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など</li> <li>外国籍市民の増加</li> </ul>	<p>【思・判・表①】 外国籍市民数の変化に着目して、学習問題を考えている。〈発言・ノート〉</p> <p>【態①】 学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っている。〈話し合い・発言〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳</li> <li>川越市HP</li> <li>写真</li> <li>グラフ「川越市に住む外国籍市民数の変化」</li> </ul>
	<p>学習問題</p> <p>川越市では、外国から来た人々と共にくらすために、どのようなまちづくりをしているのだろうか。</p>		
調 べ る	<p>②観光案内や観光課の人の話などから、川越市における、外国人観光客に対する取組や支援について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客数の増加（10年で約10倍に増加）</li> <li>多言語指さしコミュニケーションシート</li> <li>様々な言語で書かれた観光案内</li> <li>フリーペーパー観光マップ</li> </ul>	<p>【知・技①】 川越市の外国人観光客数の変化のグラフを読み取り、外国人観光客への支援について調べてまとめ、川越市の外国人観光客への努力を理解している。〈ノート、発言〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川越市HP</li> <li>グラフ「川越市の外国人観光客数の変化」</li> <li>産業観光部観光課の職員の話</li> </ul>
	<p>事例のポイント③</p> <p>本単元の内容は、令和3年度現在、川越市で行われている取組であり、市のホームページなどから新しい情報を児童自身で手に入れることができる。資料を利用する際には、出典を明らかにし、著作権や個人情報の取扱いに十分配慮することを指導し、積極的に活用する。</p>		
調 べ る	<p>③川越市における海外の都市や留学生との交流について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3都市との姉妹・友好都市交流の様子</li> <li>留学生と市民・小中学生との交流の様子</li> <li>かわごえ国際交流フェスタとかわごえ国際ボランティアの会</li> <li>国際文化交流課の職員の話</li> <li>様々な国の国旗</li> </ul>	<p>【知・技②】 川越市の国際交流について写真や資料などで調べてまとめ、市民と留学生が相互に努力して国際交流に取り組んでいることを適切に表現している。〈ノート、発言〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳</li> <li>国旗カード</li> </ul>
	<p>④川越市における外国籍市民にとって暮らしやすいまちづくりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川越市在住ALTの様子</li> <li>英語の看板や説明</li> <li>外国籍市民の川越市への思い</li> <li>困っていること：学校・買い物・病院や市での手続き・災害時など</li> </ul>	<p>【知・技①】 川越市に暮らす外国籍市民の様子や困っていることなどから、川越市の状況を理解している。〈話し合い・ノート〉</p>	<p>編 P48 指導計画作成の留意事項(6)</p>
	<p>事例のポイント②</p> <p>「調べる」過程では、市で行われている(1)外国人観光客への支援(2)姉妹・友好都市や留学生との交流(3)外国籍市民への対応など、具体的な事実を追究することで、多文化共生のまちづくりを進める川越市の取組について理解できるようにする。また、市民（ボランティア・商店街）・留学生・外国籍市民・行政（市）、複数の立場から追究することで、多文化共生がお互いの努力で成り立っていることを捉えることができるようにする。</p>		

まとめる	⑤川越市における外国籍市民への支援について調べる。 ・川越市のHP内の日本語のふりがなのついたページや、HPの翻訳機能 ・国際交流センターでの外国籍市民相談窓口の開設 ・外国籍市民会議の開催	【知・技②】 川越市が外国籍市民に行っている支援を調べてまとめ、川越市の外国籍市民への市の努力について適切に表現している。 〈ノート・発言〉	・川越市HP ・国際文化交流課の職員の話
	⑥これまで調べてきたことを整理して、学習問題の結論を導き出す。 ・川越市や市民、ボランティアの取組 ・外国籍市民・留学生の取組 ・多文化共生	【思・判・表②】 学習したことを基に、学習問題の結論を導き出し、自分の言葉でまとめている。 〈話し合い・ワークシート①(まとめシート)〉	・今まで使用した資料や学習ノート ・ワークシート①(まとめシート)
	学習問題の結論 川越市では、外国から来た人々と共にくらすために、多文化共生のまちづくりを進めている。市民と市役所が協力して一体となって、理解を深めるために様々な交流や事業を行っている。	⑦川越市の「多文化共生のまちづくりPRちらし」を作る。(本時) ・今まで学習したキーワード ・見る人に働き掛ける見出しやイラスト 編 P48 指導計画作成の留意事項(2)	【思・判・表②】 学習したことを基に、川越市の多文化共生の取組について自分の伝えたい思いをちらしに表している。 〈ワークシート②(ちらし)〉

## 5 本時の学習指導 (7/7時間)

### (1) 目標

学習したことを基に、川越市の多文化共生の取組について自分の伝えたい思いをちらしに表すことができる。  
〈思考力、判断力、表現力等〉

### (2) 展開

主な学習活動・学習内容	指導上の留意点 評価<方法>	資料等	時間
1 今までの学習内容を振り返り、それぞれのキーワードが、「誰のどのような取組か」を確認し、課題をつかむ。 ・川越市の取組 ・市民やボランティアの取組 ・外国籍市民や留学生の取組	・キーワードを提示し、「多文化共生のまちづくり」の具体について確認する。 【キーワード】 ・多文化共生 ・国際交流 ・日本語教室 ・外国籍市民 ・外国語パンフレット ・留学生 ・姉妹都市交流 ・こくさい交流フェスタ ・市民相談 ・外国籍市民会議 ・3者の立場(川越市・市民やボランティア・外国籍市民や留学生)で、整理できるようにする。	・学習ノート ・前時までの資料 ・ワークシート①(まとめシート)	3

課題				
「多文化共生のまちづくりPRちらし」には、どのような内容を書いたらよいだろうか。				
2	<p>本時の学習が、川越市の「多文化共生のまちづくりPRちらし」を作ることと知り、どのような言葉を入れたら、家族や友達に川越市の多文化共生の取組の努力が伝わるか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の看板やパンフレットなど、外国人観光客への取組</li> <li>・日本語教室の設置・市民相談の実施など、外国籍市民への支援</li> <li>・川越市ホームページの工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介する対象を「家族や友達」と設定することで、学んだことを分かりやすく伝える表記方法について考えることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート②（ちらし）</li> <li>・ノート</li> </ul>	3
		<p>事例のポイント① 学んだこと（調べたこと）をちらしの内容として、どのように整理するか考えることを通して、思考力、判断力、表現力等を育む。</p>		
3	<p>ワークシート②を用いて、キーワードを使いながら、川越市の「多文化共生のまちづくりPRちらし」を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに書いたワークシート①（まとめシート）を見ながら、自分が大切だと思うキーワードを選べるように支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート①（まとめシート）</li> <li>・ワークシート②（ちらし）</li> <li>・ノート</li> </ul>	12
4	<p>記事の内容について相互評価し合い、どんな工夫や見出しをつけたら「多文化共生のまちづくり」が伝わるかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習したキーワード</li> <li>・見る人に働き掛ける見出しやイラスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記事の内容について相互評価させることで、客観的にわかりやすさを実感できるようにする。</li> <li>・記事から書き始め、その後に見出しを考えることで、工夫した見出しをつけることが考えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート①（まとめシート）</li> <li>・ワークシート②（ちらし）</li> <li>・ノート</li> </ul>	6
<p>まとめ 「多文化共生のまちづくりPRちらし」には、市役所や団体など多くの人々が協力して地域が一体となって取り組んでいることを書くといよい。</p>				
5	<p>ワークシート②に、見出しを書き込み、ちらしの記事を書き上げる。</p>	<p>【評】 学習したことを基に、川越市の多文化共生の取組について自分の伝えたい思いをちらしに表している。 【思・判・表②】〈作品〉 ⇒ちらし作成が進まない児童に対しては、以下の支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍市民の視点を考えさせるようにする。</li> <li>・「誰が、どの取組を行ったのか」3者の立場を振り返るようにする。</li> <li>・友達との話合いの中で、大切だと考えることを短い言葉で表すように助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート②（ちらし）</li> </ul>	18
6	<p>本時の振り返りをノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多文化共生の意味について自分の考えをノートに書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート②（ちらし）</li> </ul>	3

## 6 板書計画

**課題** 「多文化共生のまちづくりPRちらし」には、どのような内容を書いたらよいだろうか。

学習したキーワードを使って書こう

多文化共生

国さい交流

りゅう学生

外国せき市民

日本語教室

国さい交流センター

かわごえ国際交流フェスタ

外国語パンフレット

市民相談

外国せき市民会議

## 7 事例のポイントと考察

### (1) 事例のポイントについて

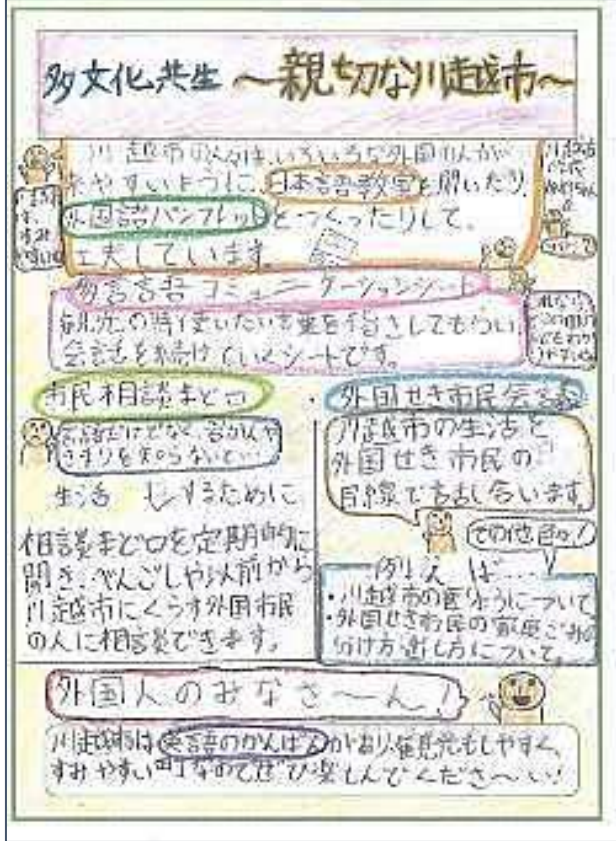
#### ア ①学んだことを生かした表現活動を通して、思考力、判断力、表現力等を育む

本事例では、学んだことを生かし表現する活動として、川越市における「多文化共生のまちづくりPRちらし」の作成を行った。

これは、児童に調べたことを基にちらしづくりを行わせることが、文章などで記述する過程で、考えたこと、調べたこと、理解したことを表現させることになり、思考力、判断力、表現力等を育むことにつながると考えたためである。

実際の授業では、第⑦時のちらしづくりを通して、学習内容から多文化共生のまちづくりという特色を他の人に伝えるため、自分の考えを整理し、必要な事項を選別することができた。作成後のちらしの記述内容から、川越市の多文化共生のまちづくりの特色やよさに気付くことができた。

学んだことを生かしたちらしづくりの実際①	作成時の教師の支援の実際
<p><b>【A児の作品】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3者の立場（川越市・市民やボランティア・外国籍市民や留学生）を明確にするようにする。</li> <li>・「誰が、どの取組を行ったのか」について分かるように表現するようにする。</li> <li>・学習してきた多文化共生のまちづくりについてのキーワードを整理するようにする。</li> <li>・自分の伝えたい順番に吹き出しにして、並べるようにする。</li> <li>・多文化共生のまちづくりのよさが他の人に伝わりやすくするようにする。</li> <li>・「見出し」は、「多文化共生のまちづくり」を自分なりに言い換えるようにする。</li> </ul>

学んだことを生かしたちらしづくりの実際②	完成時の教師の見取りの実際
<p>【B児の作品】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3者の立場（川越市・市民やボランティア・外国籍市民や留学生）を全て取り入れている。</li> <li>・誰がどの取組を行ったのか、明確になっている。</li> <li>・伝えたい内容に必要なキーワードを整理している。</li> <li>・上から、自分の伝えたい順番に吹き出しにしている。</li> <li>・多文化共生のまちづくりのよさを、まとめの部分で呼び掛けていること。</li> <li>・見出し部分で、「多文化共生のまちづくり」を「親切的な川越市」として言い換えている。</li> <li>・多くの人々が協力して、一体となって取り組んでいることが伝わるように書いている。</li> </ul>

イ ②具体的な事実を追究する学習過程を通じて、児童の思考を活性化させる。

本事例では、学習問題「川越市では、外国から来た人々と共にくらすために、どのようなまちづくりをしているのだろうか。」を設定した。そして、「調べる」過程では、社会的事象である川越市の3つの取組（(1)外国人観光客に対する取組や支援(2)姉妹・友好都市や留学生との交流(3)外国籍市民への支援など）を具体的に調べてその特色に迫るように取り組んだ。

また、学習の足跡として、自分で書いたまとめを一覧で見ることができる、「まとめシート」を活用した。

これらは、川越市の3つの具体的な取組の事実を追究する学習過程を通じて、「多文化共生

のまちづくり」の実際に基に具体的に考えることが、児童の思考を活性化させることにつながると考えたためである。

実際の授業では、「まとめシート」の記述内容等から、具体的な取組の事実を基に、川越市の多文化共生のまちづくりについて理解することができたことが分かる。

【3】多文化共生のまちづくり 川越市 まとめシート		学習したキーワード
1 川越市について	川越市は外国人の外国人とともくらすために、どのような関わり方をしているのか調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室</li> <li>・外国籍市民</li> <li>・外国籍ボランティア</li> <li>・姉妹都市交流</li> <li>・外国籍市民相談窓口</li> <li>・外国人市民会館</li> <li>・ボランティア</li> <li>・留学生</li> </ul>
2 外国人観光客への対応	川越市は色々な国の外国人が来やすいように工夫している。	
3 姉妹都市や友好都市との交流	川越市は色々な国の外国人が来やすいように工夫している。	学習問題のまとめ
4 外国人市民への支援	川越市は色々な国の外国人が来やすいように工夫している。	<p>色々な国の外国人が来やすいように工夫していたり、姉妹都市や友好都市との交流をしている。多文化共生のまちづくりのために、川越市は色々な国の外国人が来やすいように工夫したり、ボランティアをするための活動をしたりして、外国人は暮らしやすいように工夫している。</p> <p>外国籍市民とともくらすために、外国籍市民が来やすいように工夫して、暮らしやすい環境を作っている。</p>
5 外国籍市民との関わり	外国籍市民にとって、川越市が住みやすい町にするために、日本語教室を開いたり、会議をしたりしている。	

ウ ③ I C T 端末を活用させることを通じて、効果的に情報収集できるようにする。

本事例では、I C T 端末を活用し、川越市のホームページから、実際の取組について調べさせた。特に3つの取組（(1)外国人観光客に対する取組や支援(2)姉妹・友好都市や留学生との交流(3)外国籍市民への支援など）について、意図的に最新の情報を収集させた。

これは、児童自身が新しい情報を効果的・効率的に情報収集できることが調べる意欲の喚起につながり、思考力、判断力、表現力等を育むことにもつながると考えたためである。

実際の授業では、第①～⑤時において、児童が市のホームページを活用すると効果的に情報収集ができることを経験し、他の単元でも応用できるようになった。

## (2) 実践に当たっての留意点

第④時「川越市における外国籍市民にとって暮らしやすいまちづくりについて調べる。」では、本校のA L T を登場させ、外国籍市民として生活している町について、どのように考え、どのような悩みを抱えているのかを直接聞き取る活動を取り入れた。

本事例では、A L T の話から、外国籍市民から見た自分の生活する町のよさや、自分の生活する町と川越市を外国籍市民にとって暮らしやすいまちづくりという視点で比較した考えなどに触れることができ、多文化理解に有効な活動の一つとなった。

また、思考力・判断力・表現力等を育てていくために、自分なりの言葉や表現による言語活動を充実させることは重要である。今回は「ちらしづくり」を位置付け、自分の考えたことをアウトプットし、他の人の考えと比較することで、自分の考えを再構成させていった。本単元だけではなく、繰り返し指導していくことが大切である。